

並木健康くらぶ通信

並木病院 看護部教育委員会

平成29年3月 第4号



「優は人なり」

並木病院 赤津拓彦

昨年11月にチベット仏教の最高権威でノーベル賞受賞者のダライ・ラマ14世が埼玉医大でご講演をなさったことが新聞(読売新聞埼玉版)に掲載されていました。演題は「医学の進歩と温かい心」と言うもので「優れた医師が機械的に処方した薬より、優れていなくても優しい医師の薬の方が効く。患者の心に寄り添って欲しい」と発言されたとのことでした。

新聞を読みながら、「優れた」も「優しい」も同じ漢字だと思い、語源を調べてみました。漢字の世界では会意兼形成文字で「人」と「憂」の合体版とのこと、「横から見た人」の象形

である「にんべん」と「人の頭部を強調した象形と心臓の象形と下向きの足の象形」である「憂」(うれえる、よくないことになるのではないかと心配する)から構成され、「他人を思いやる気持ちを持った人」が漢字の成り立ちでした。優は画数の大きな字ではありますが、その中に人に繋がる象形が4つも含まれていることに感心しながら、昔の人達は人としてあるべき姿として「優」の字を発案したのかなと空想に耽っていました。困っている人々が市に溢れる中で、どうにかしようとして頭を使い、心を動かし、足を使って奔走する姿が目に見えました。

現在は個人情報保護の名の下で、各人の生活情報や健康情報は秘匿されています。また、ITの発展は、面倒くさい、傷つきたくない、干渉されたくない等の他人との関係希薄化に大きく寄与しています。本当は老若男女を問わず、助け合いや支え合いがないと成立しない今後の少子高齢化社会なのに。地域包括ケアを成功に導くためにも、我々医療者は勿論、住民全員がコミュニティー全体の安寧のため、共に集まり、情報を共有し、話し合い協力することが大切です。

「優しい」も「優れた」も人との係わりの中で初めて輝く言葉、地域の皆様との絆が少しでも太くなるように私個人としても精進して参ります。そんなに便利でなくても「有難うやお互い様が町中に溢れるような土地柄」が人間らしい、住みやすい場所かなと思います。



並木健康くらぶ講習会 第3回

「糖尿病について 血糖値ってなに？」

講師: 糖尿病療養指導士

白砂 朗子

1月28日、8名の参加で開催されました。

血糖値はどうして上がるのかの話と、

実際に血糖値を測り、飴を食べた前後の比較実験もしました。

沢山の質問があり、糖尿病に対する関心の高さが感じられました。

また、患者さんの経験談もあり何よりの情報交換の場となりました。

次回のお知らせ

第4回 講習会

テーマ: 実技をふまえて

ロコモ防止

日時: 3月25日(土)

12:00~12:30

講師: 三上知信

認定理学療養指導士

簡単な体操をします



フェアリーズからのお知らせ



次回外来研修 5月20日(土)10:00~12:00

(予約制となります。)

「植物の会話能力と精油」 講師: 西井貴誠 医師

☞左の写真は、2月4日の研修の様子です。

癒しスプレーを作成しました。

♥毎回30人以上の参加をいただいております♥



療養病棟(B1)の豆まきの行事



編集後記 病棟では患者さんと一緒に豆まきを行いました。鬼役の運藤恒さんに聞きました。「毎年、緊張します。でも患者さんが喜んでくれるので、やっているうちに鬼になりきってます」何だか鬼さんたち楽しそうですね。今年も院内・院外の研修を楽しく♡すすめていきたいと思います。教育委員一同よろしくお願いします。

教育委員: 高野委員長、大山副委員長、今井、高橋(由)、根岸、渡部、橋本、佐藤、白砂